

## 抄 録

### 福島県におけるヒラメ放流種苗の食害

富山 毅・江部健一\*・川田 暁・藤井徹生\*\*

Post-release Predation on Hatchery-reared Japanese Flounder  
*Paralichthys olivaceus* in the Coast of Fukushima, Japan

Takeshi TOMIYAMA, Kenichi EBE\*, Gyou KAWATA and Tetsuo FUJII\*\*

Journal of Fish Biology 75 (10), 2629–2641 (2009)\*\*\*

福島県沿岸において毎年 100 万尾のヒラメ人工種苗が放流されている。この放流種苗に対する捕食者を特定するため、放流後にさし網や小型の底びき網を用いて魚類やカニ類を採集した。種苗の捕食は主に 1 歳以上のヒラメ、クサウオ、コモンカスベ、ヒラツメガニで検出された。これらの捕食者はヒラメを除いて全て夜間食者であった。ヒラメを捕食する大型のクサウオは冬季にのみ出現し、また大型のヒラツメガニは初夏と秋に多く出現した。このような捕食者の分布豊度の季節変動を考慮して放流することで、放流後の被食減耗を軽減できると考えられた。

---

\* 福島県水産事務所

\*\* (独) 水産総合研究センター本部

\*\*\*誤植訂正 : Journal of Fish Biology 76(4), 1064–1065 (2010)